



「ユニセフで学ぶ」

大久保中学校は、3年前にチャレンジタイムを導入した時、多くの学校で取り組んでいるような「地域学習」を検討しました。新宿区役所を学区域にもつ環境を生かして、新宿区の施策から「環境・福祉・国際理解」などを中心に、生徒達に社会的関心を育み自己の生き方を考えさせながら、「学ぶことの大切さ」を身に付けることをめざしたのです。また、学校周辺の地域性から、大久保中学校には外国籍の生徒が多く在籍しています。それぞれの生徒が自国に誇りを持ち、地球人として生きる力を育成することも目標に設定しました。

上記のねらいを実現するには、まず世界の問題に関する情報を得てそれを考察する力を養い、参加型や体験型の学習を通して問題解決のために必要な思考力や課題解決能力を育成していくことが大切です。最終的には自分達自身がよりよい未来をつくる原動力だと考え、参加する態度を身に付けることによって、地球人として生きることをめざします。

世界162の国と地域で活動するユニセフは、子どもたちが同じ世代の仲間たちの姿を通じて現在の世界の様子をとらえ、地球市民としてどのように考え、行動したらよいか、という問いにこたえる多くの要素をもっています。そして何よりも、ユニセフの活動は学校の目指す大テーマ「他とよりよく生きる」と一致するため、大久保中学校は日本ユニセフ協会と連携して課題に取り組むことになりました。2001年度は7回「ユニセフで学ぶ」時間を設け、2002年度は「総合的な学習の時間」で70時間35単位(10単位...ユニセフ活動の概要学習、25単位...テーマ設定、調べ学習、評価活動、表現活動)を予定しています。

2001年度のユニセフ学習の展開

それでは、2001年度に取り組んだ7回のユニセフ学習の概要をご紹介します。

- 10月29日(月) 朝礼の校長講話で「ユニセフで学ぶ」ことの意義について説明する。
- 11月 2日(金) 研修主任が「総合的な学習の時間」のガイダンスを行う。
- 11月 6日(火) 3・4校時 全校生徒を対象に「ユニセフ活動の概要」について説明する。
ビデオ「ユニセフと世界のともだち」上映
「ユニセフの特長」についてのプレゼンテーション
水がめ運搬体験(約15kg)
脱水症状を防ぐ経口補水塩水を作る方法を学ぶ。
- 12月 8日(土) ユニセフ製品販売(生徒会役員を中心としてPTAバザーにて)
- 12月20日(木) 3・4校時 全校生徒対象に「カンボジアの農村の子どもたち」について説明する。
- 1月21日(月) ユニセフハウス1・2F展示スペースで3年生の個人学習を行う。
- 3月 6日(水) 3・4校時 全校生徒を対象に「ユニセフで学ぶ世界の保健事情」について学習する。

第5回学習展開(平成13年12月20日実施)

大久保中学校の先生と日本ユニセフ協会スタッフは、学習の展開について十分に連絡をとりながら、世界の同世代の子どもたちのようすを理解し、関心・興味を引き出し、自分で追求してみたい課題が発見出来るように試みしました。昨年12月20日に実施した「カンボジアの農村の子どもたち」での学習は、下記のとおり展開しました。

時間		学習の流れ
5分	導入	以前の仕事で、カンボジアで学校作りの事業に携わり、英語教師として活動したことがある日本ユニセフ協会のスタッフを先生が紹介する。
20分	展開1	ビデオ「カンボジアの子どもと未来」を上映する。
10分	展開2	日本ユニセフ協会のスタッフがスライドを使ってカンボジアでの学校の様子を説明する。
10分	小休憩	座席をコの字型に変更し、生徒と日本ユニセフ協会のスタッフが双方向に話せるようにする。
20分	展開3	カンボジアでの教育活動を通して感じたことなどについて生徒との対話形式で話合う。
10分	まとめ	アンケート用紙に感想を記入する。

留意点

日本ユニセフ協会スタッフと生徒が対話できるよう座席等の工夫をする
学年に応じた質問、発問等の考慮をする

評価

カンボジアの子どもたちの教育状況が把握できたか
地球人としての「生き方」について、どんなことを感じたか
より深く興味・関心がもてたことは何か

生徒の感想

カンボジアの子どもたちについて

今まで、自分は、開発途上国の子ども達は「かわいそう」とか「大変だなー」と思っていた。確かに、6歳になっても学校に行けず食事も少ないという厳しい環境のなかで、生きている。でも彼らは、夢をもって未来を見ていることが分かった。カンボジアの子どもたちも、私たちも何ら変わりはないのだ。子どもたちがもっと幸せになってほしい。(NW)

他とともによりよく生きるためにあなたはどうしたらいいと考えますか?

まずは協力。一人より、皆で協力してやったほうが、たいていのことはできると思う。また、いろいろな人と関わることによって「より良く生きる」ということができるのではないだろうかと思った。(NK)

当事業部とのTTをお考えの学校は、下記までご連絡下さい。

(財)日本ユニセフ協会学校事業部 TT担当

メールアドレス: se-jcu@unicef.or.jp